



森林における
エゾシカの
被害と対策

林野庁 北海道森林管理局

01 エゾシカとは

エゾシカについて…

エゾシカはオスの場合、最大で体重150kg・体長190cmに達する国内最大の草食動物です。寿命は概ね14～20年。北海道全域に広く分布していますが、その大半は日高・十勝・釧路・根室・網走の各地域を中心に、道東から道北に集中しています。夏毛は赤茶色、冬毛は灰褐色というのが特徴。メスは家族群で、オスは単独で生息し、繁殖期に入るとハーレム（一夫多妻の群れ）をつくります。メスは早ければ満1歳で交尾・繁殖が可能となり、大型獣としては個体群の増加率が高くなっていることも特徴のひとつといえるでしょう。主に生息しているのは森林地帯ですが、その個体数の増加に伴い農林業被害や交通事故が多発し、問題となっています。このように広く分布した要因は、放棄農地や伐採跡地をはじめとする人工草地や越冬に適した常緑針葉樹林などが増加していることが挙げられます。



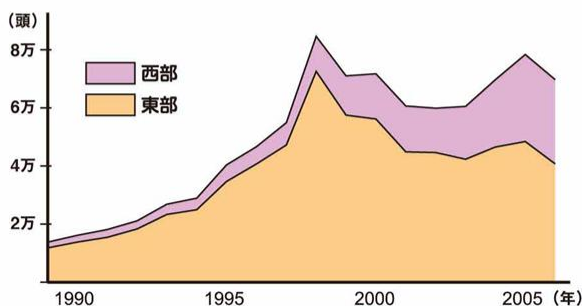
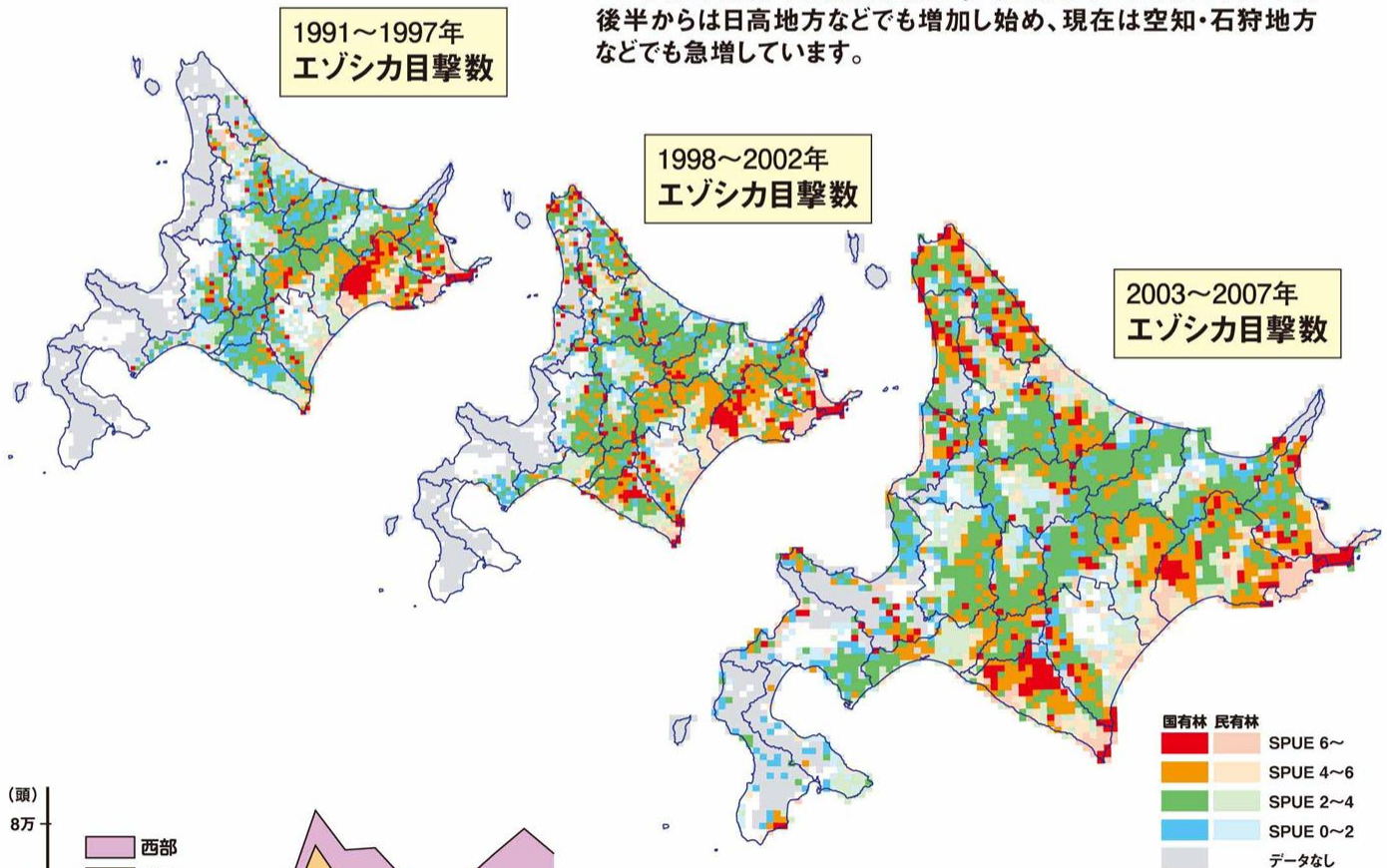


02 エゾシカの分布と変化

絶滅の危機から爆発的な増加へ

エゾシカは、かつて明治期に絶滅の危機に瀕し、捕獲が禁止されていました。その後、狩猟の解禁・禁止を経て、現在では約64万頭(2010年現在)が生息しているとされています。その数は爆発的に増加を続けており、下図のように1990年以前は道東中心だった生息地域が、90年代後半から日高地方などで増加をはじめ、現在は全道に広がっています。

エゾシカは1990年以前は道東に多く生息していましたが、90年代後半からは日高地方などでも増加し始め、現在は空知・石狩地方などでも急増しています。



エゾシカの捕獲頭数の推移 (北海道環境生活部)

5キロメッシュごとの狩猟者一人一日あたりの目撃数 (SPUE) を国有林内外に分けて表示したもの
(北海道環境科学研究センター提供データより算出)

03 エゾシカの一年

夏

生息範囲が広域に分散し、個体によっては高山地帯でも見ることができます。また、人間の生活範囲にも出没し、林道沿いなどで親子連れを見ることも稀ではありません。

秋

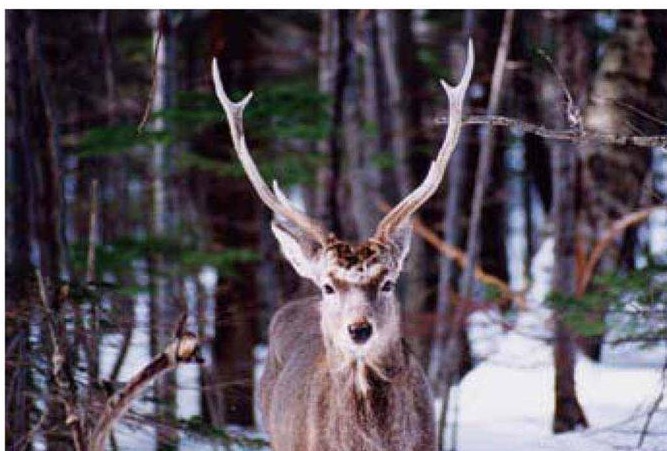
9月、オスの角が「枯れ角」と呼ばれる状態になり、この頃からマーキングと考えられる樹木への角擦りが増えはじめます。10月以降、冬毛へ生え換わり、繁殖期に入ります。

冬

雪深い環境は、移動や採餌が困難であるため、極力積雪の少ない山の南斜面に移動し、集団で越冬します。この間、体力のない仔鹿などが命を落としてしまうことがあります。

春

4月頃、体の大きなオスから順に枯れ角が落ちはじめ、新しい袋角が生えはじめます。また、5～6月には鹿の子模様の夏毛に生え換わり、6月に出産期を迎えます。



〈角を持つオスジカ〉



〈夏毛のメスジカ〉



〈冬毛のメスジカ〉

04 エゾシカの食べ物、森林との関わり

エゾシカは森林地帯に生息しており、そこに生える植物を食べるということは自然なことでしょう。もちろん、ほとんどの植物を食べますが、エゾシカには人間と同様に「好み」があるのです。例えば、高木ではニレ類やイチイ、低木ではノリウツギやタラノキが挙げられます。その反面、イチイ以外の常緑針葉樹や有毒植物、シダ類などはあまり食べません。そのため、エゾシカの数が多くなってくると森林への影響が懸念されます。特に越冬地の周辺では顕著で、好みの植物が食べ尽くされ、好みではない植物が著しく繁茂し、植生そのものに影響を与えてしまっているのです。その他にも牧草地での被害、次世代を担う稚樹が少なくなることによる森林への長期的な影響、特定の植物に依存する昆虫への影響など枚挙にいとまがないほど強い影響力を持っています。



〈エゾシカによる広葉樹の食害〉



〈エゾシカに食害された森林〉

05 エゾシカの痕跡について

樹皮剥ぎ／角こすりの例



下層植生の痕跡の例



〈ほうき状になったササの葉〉



〈ササの葉の一部を引きちぎるようにして食べる場合もある〉



他の動物による類似の食痕の例



〈エゾユキウサギの食痕〉



〈ネズミ類の食痕〉

エゾシカは前歯が下あごにしかないため、引きはがすような食痕になります。ウサギは鋭く切れた痕、ネズミは細かい噛み痕がつきます。

06 エゾシカが森林に与える影響調査

調査の目的

エゾシカによる農林業被害額が再び増加しているなか、人工林においては枯損した植栽木の本数等で被害状況を明らかにすることができますが、天然林における被害はその把握の難しさ等からほとんど明らかにされていない状況にあります。

そこで、北海道森林管理局では、平成21年度よりエゾシカが天然林に与えている影響を把握するための詳細な調査を実施しました。また、平成22年度より全道の森林官によるエゾシカの影響を把握するための調査も進めています。

平成21年度の調査結果

【釧路地域】 樹皮剥ぎ率や稚樹の食痕率が高い箇所が多く、特に、白糠町や釧路市阿寒町では、稚樹、ササ等の生育密度が低く、強い影響が累積している。

【日高地域】 稚樹や下枝の食痕率が高い箇所が多く、エゾシカの強い影響が出てきている。特に新ひだか町静内では、稚樹の生育密度が低く、強い影響の累積が観察された。

【上川中部地域】 樹皮剥ぎ率や下枝の食痕率が概ね低く、エゾシカの影響がほとんどない箇所が多い。ただし、上川町などでは稚樹の食痕率が高いなど、影響が出始めている。

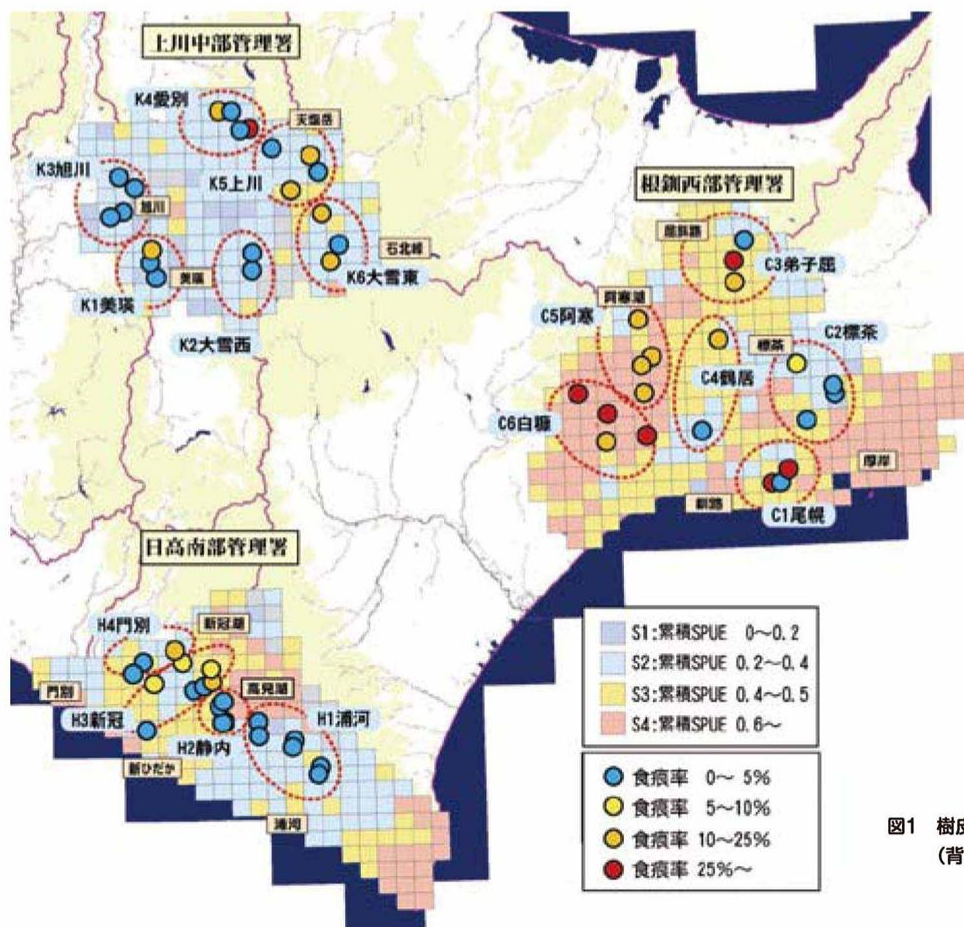


図1 樹皮剥ぎ率の分布
(背景はSPUEの値分布)

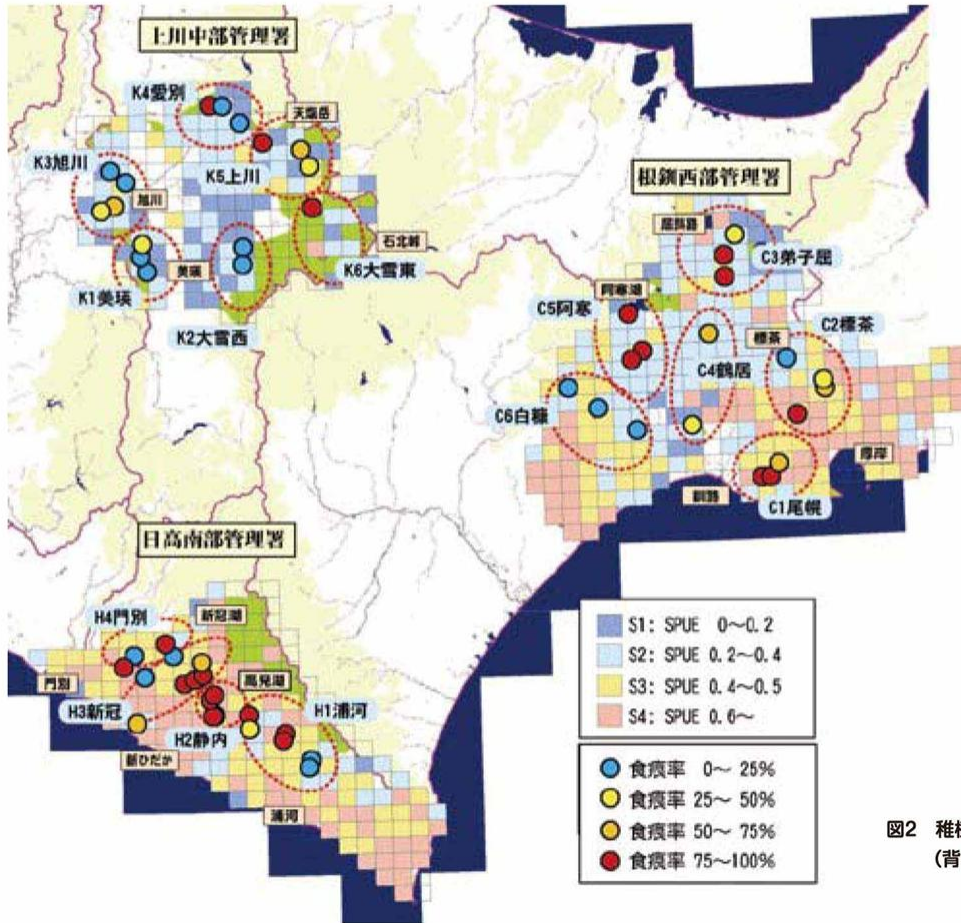


図2 稚樹食痕率の分布
(背景はSPUEの値分布)

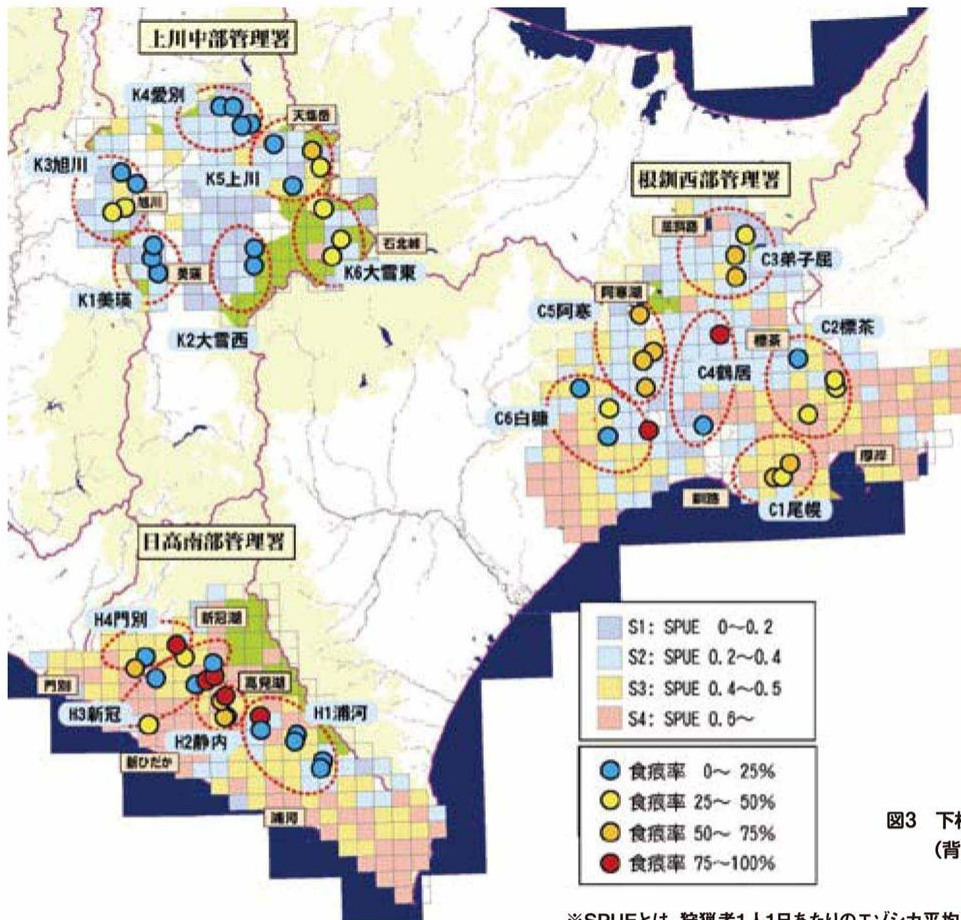


図3 下枝食痕率の分布
(背景はSPUEの値分布)

※SPUEとは、狩猟者1人1日あたりのエゾシカ平均目撃数。
図では、5キロメートル四方を1マスとしている。
(北海道環境科学研究センターの狩猟統計によりSPUEを図化)

07 囲いワナによるエゾシカの生体捕獲

目的

エゾシカの生息密度が高いといわれている白糠町内の国有林において、個体数調整に資することを目的として、事業の一環としてエゾシカの捕獲を実施しました。

捕獲の際は、エゾシカを単なる「害獣」としてではなく「持続可能な自然資源」としてとらえ、囲いワナを利用した生体捕獲により、食肉等としての有効活用を目指しました。

実施内容

期 間：平成21年12月～平成22年4月（うち、捕獲実施期間は平成22年2月～4月）

場 所：白糠町上茶路（根釧西部森林管理署管内）

取 組 内 容：周囲の一般猟区から鳥獣保護区に集まるエゾシカの捕獲を実施

希少猛禽類に配慮してワナの設置位置を検討

角を持つオスをできるだけ排除するため、囲いワナにオスフィルターの設置を試行

※都道府県が設置した鳥獣保護区においてエゾシカなどの特定鳥獣の捕獲を行う場合は、知事の許可が必要です。

囲いワナ設置時の適地について

条件	要件	理由
地理的	平坦で安定した土地	ワナ設置、作業等を安全に行うため。また、捕獲後の作業も斜面では危険を伴うため。
	林道から近い	ワナ設置の資材搬入、捕獲したエゾシカを搬送するトラックの進入など、各種作業を容易に行うため。
社会的	地権者の許可が得られる個所	ある程度の期間、ワナや監視小屋を設置するため。
生態的	エゾシカが多く利用している個所	高い捕獲効率を得るため。
	エゾシカが利用していると思われる休憩場所が近い	
	希少種の生育個所から離れている	エゾシカの捕獲により希少種に悪影響を与えないため。



〈囲いワナの設置状況(内径20m×15m)〉
(右上はオスフィルター)



〈捕獲したエゾシカの追い込み〉

08 関係機関と連携した捕獲



〈狙いを定めるボランティアハンター〉

除雪による捕獲の効率化

釧路支庁(現 釧路総合振興局)が平成22年3月に行ったボランティアハンターによるエゾシカ捕獲活動を支援するため、根釧西部森林管理署は、2月15日から3月12日にかけて釧路市阿寒町内の国有林林道64キロメートルの除雪を実施しました。

これにより、ボランティアハンターによるエゾシカ捕獲数が367頭を数え、当初の計画より大幅な捕獲数増となり、除雪の実施による効率的・機動的な捕獲が実証されました。

ボランティアハンターによる
 ・捕獲数 367頭
 ・延べ人数 284人・日
 (1人あたり約1.3頭を捕獲)

エゾシカとの共存を求めて

1990年代から爆発的に増え始めたエゾシカは、森林や草地にある特定の植物を食べ尽くし、小動物や昆虫が生息する環境を歪めてしまいました。そして、餌を求めて人の生活範囲に入り込んできてしまったのです。

その結果、道東地方を中心に農林業被害をもたらし、被害規模は50億円を超え、年々深刻さを増しています。さらに交通事故や鉄道事故も誘発しており、近年では自動車との衝突による死亡事故さえ発生しています。もはや一般的な視点でマイナス資源と見られてしまうことは当然のことなのかもしれません。

しかし、ただマイナス資源として駆除してしまうだけでいいのでしょうか。本来、エゾシカは北海道固有の魅力的な天然資源なのです。

今後、エゾシカはさらなるプラス資源として活用することが求められます。北海道森林管理局では、人とエゾシカが共存するための新しい関係を築くことを目指します。

林野庁 北海道森林管理局

(問い合わせ先:保全調整課)

〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番

TEL 050-3160-6274

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>